

柳田邦男氏と中学生が語る平和と未来

鹿沼市戦後80年記念平和集会

総合政策課総務係 (63)2138

11月1日、市民情報センターマルチメディアホールで、柳田氏と中学生が平和と未来をテーマに話し合う平和集会を開催しました。広島平和記念式典派遣事業で被爆地を訪れた市内の中学生が、鹿沼での戦争体験の講話や紙芝居を聞き、その後、柳田氏とオンラインで対話をを行い、平和について考えを深めました。

者からは「柳田氏が語る一つひとつの言葉に重みを感じた」「平和な社会で生活できていることのありがたさを改めて意識した」といった感想が寄せられました。

続いて、戦争体験を語り

継ぐ会に

よる紙芝居

「ぼくが見

た鹿沼の空

襲」が上演

され、戦時

中の鹿沼の

様子や空襲の被害が子ども

の目線から語られました。

講演と紙芝居を通じて、戦争が鹿沼市に与えた影響の大きさを再認識する機会となりました。

鹿沼での戦争体験

集会ではまず、柳田氏の戦争体験の講演映像が上映されました。「空から無数の花火が降ってきたようだつ」と鹿沼で経験した機銃掃射や焼夷弾による空襲、小学生の頃に防空壕を掘ったことなどが、実体験をもとに語られました。会場の参加



▲戦争体験を語り継ぐ会による紙芝居



▲ロビーには焼夷弾などが展示

広島派遣事業の学び

後半のオンライン対話では、広島平和記念式典派遣事業に参加した中学生の代表が4つのテーマに沿って作文を発表しました。「今なお過去の悲劇を伝え続けている人がいる」「家族のありがたみ、戦争・核の恐ろしさを伝えていきたい」「異なる文化や価値観を持つ人々を理解し、尊重する姿勢を持つことが重要」「優しさで返せば、きっと優しさが戻ってくる」といった意見や想いが述べられました。

どの発表からも、広島での体験を自分の言葉で受け止めようとする姿勢が感じ



▲柳田氏と中学生のオンライン対話の様子

平和を次世代へ

来場者からは「中学生が頼もしく感じた」「平和に対する思いを今後も大切に伝えてほしい」といった感想が寄せられました。

今回の平和集会で得られた気づきや思いを家庭や学校、地域の中で語り合い、伝えていくことで、戦争の記憶を風化させず、平和な社会を次の世代につなぐことでしよう。



▲柳田氏と対話をした中学生たち

※集会の様子は市ホームページからご覧いただけます。

